

令和6年9月1日 発行
 (株) ニーノコーポレーション
 扶桑町大字芥藤字緑223
 (0587) 93-7833

『緊急時の対応訓練』

江南消防局と連携して緊急時の対応訓練を実施しました。心停止状態、出血時の止血の仕方、骨折時の固定方法等、通常時のみならず災害時にも活用できる内容の訓練の実施となりました。119番通報をしてから救急車が到着するまでの間、心臓マッサージを行うことは、ヘトヘトになるほど大変なことを訓練を通じて学ぶことができました。



『手作りケーキでお祝い』

以前はお店でケーキを買って誕生日のお祝いをしていましたが、手作りケーキでお祝いをするようになりました。手作りと言ってもスポンジを焼く所からという訳ではありませんが。職員がデザインし、買ってきたスポンジを利用者さんと一緒にデコレーションして仕上げます。お一人お一人を思い浮かべてデザインされるケーキによって、より嬉しいお誕生日になっている気がします。



『食べてばかり！？なフォトギャラリー』



手巻きではなく握ります！！



上手く返すよっ！！



火加減難しいw



ネギ、ネギ、ネギ・・・

『気持ちに寄り添う対応を』

介護士にとって、利用者様から「ありがとう」と言われることは仕事のやりがいの内の一つだと思います。人に直接感謝の言葉を掛けられる仕事はとても貴重なものですね。それを仕事のやりがいの一つにすることは全く問題のあることではありません。「ありがとう」と言ってもらえる素晴らしい仕事をした介護士を褒めてあげたくなりますが、利用者様からの「ありがとう」の言葉でその場が締めくくられていたとしたらどうでしょうか？私はこの場合、介護士の仕事としては良い仕事をしたとは思いません。

人の心にはストロークという考え方があります。プラスのストローク、マイナスのストローク2種類のストロークがあります。プラスのストロークは「挨拶」「笑いかける」「褒める」「撫でる」等肯定的な接し方。マイナスのストロークは「叱る」「制止する」「叩く」といった否定的な接し方。人の心にはこのストロークを貯めておく財布があり、その財布からプラスとマイナスどちらかのストロークを取り出して他者とコミュニケーションを図ります。そして相手から受け取ったストロークを自身のその財布の中へしまい、次のコミュニケーションで使用します。自分のストロークを他者に与え、反対に他者からストロークを与えられて自分のストロークを補っているのです。プラスが溜まっていれば他者に優しくでき、マイナスが溜まっていれば他者に辛く当たってしまいます。

利用者様の「ありがとう」で場面を締めくくった場合、利用者様はプラスのストロークを一つ消費した状態で終わってしまいます。認知症の高齢者は、その性質上ストロークを他人から補う場面が少ないです。とりわけプラスのストロークを補う事は困難です。これは認知症の高齢者を取り巻く環境を理解していれば容易に想像が出来ます。それなのに利用者様のプラスのストロークを減らしたまま、その場を立ち去るのは介護士として良い仕事をしたとは言えません。利用者様のプラスのストロークを増やして心を豊かにして、初めて良い仕事をしたことになると私は考えます。

先にも述べましたが、利用者様からの「ありがとう」を仕事のやりがいにする事は決して悪い事ではありません。「そう言ってもらえて、こちらこそありがとうございます。」でその場を締めくくる癖を付けてみませんか？

今回は、はなえくぼ扶桑便りです。どうぞお楽しみに！



グループホームはなえくぼ扶桑
 丹羽郡扶桑町大字柏森字辻田398
 (0587) 91-0110
 グループホームはなえくぼひくみ
 犬山市大字五郎丸字郷瀬川17番地1
 (0568) 68-8096

グループホームはなえくぼ江南
 江南市小松町長者毛西132番地
 (0587) 52-3808
 はなえくぼのホームページ
www.gh-hanaekubo.com
 ブログも時々更新しています